

令和5年度

研究集録

第61号

書

埼玉県連合教育研究会
埼玉県書写教育研究会

目 次

あいさつ	会 長 堀 越 敦	2
埼玉県書写教育研究会事業報告（令和5年度の概要）		2
〈埼玉県連合教育研究会研究発表〉		
・「主体的・対話的で深い学び」を目指した書写授業の展開		
	加須支部 加須市立豊野小学校 松 本 学 美	6
・学んだことを日常に役立たせる書写の授業		
	加須支部 加須市立昭和中学校 安 藤 美 幸	9
〈埼玉県書写教育研究会研究発表〉		
・学校間共有フォルダ等を活用し支部全体で取り組む書写の授業 ～多分野への教育効果を書写から育むことを目指して～		
	志木市立宗岡小学校 西 本 啓二郎	14
・生徒間の交流を通して主体的に学習に取り組む書写指導		
	志木市立志木中学校 小 谷 啓 治	17
・書写授業を通して、文字を書く楽しさや大切さを指導する工夫		
	川越市立仙波小学校 白 石 恵美子	20
・実践的指導力の向上を目指した市内実技研修		
	川越市富士見中学校 安 藤 楓 子	23
・一人一人が主体的に取り組むことができる書写の授業を目指して		
	越谷市立北越谷小学校 広 瀬 千 恵	26
・主体的に取り組み、文字に対しての関心を深める書写指導を目指して		
	越谷市立栄進中学校 渥 美 めぐみ	29
埼玉県書写教育研究会役員表		32

書字文化を育む書写教育の推進

埼玉県書写教育研究会長 堀 越 敦
(行田市立長野中学校)

近年、国のGIGAスクール構想による一人一台端末の導入によって、タブレットを文房具代わりに活用することが求められ、文字を手書きする機会が自ずと減少しています。しかし、今後も手書きをする場面がなくなることはなく、手書きの文化やそのよさをいかに継承していくかということが課題として私たちに突きつけられています。そこで、今年度の研究主題をこれまでと同様に「書字文化を育む書写教育」としました。

本研究会では、学習指導要領の趣旨を踏まえた書写授業の改善を目指し、実技研修会や授業研究会等を実施しました。

8月8日には越生町中央公民館を会場に、夏季実技研修会を開催し、県内各支部から51名の先生方が参加しました。午前中は、「書写指導の基本及びICTを活用した授業」として、書写授業の進め方、ICTの効果的な活用方法、さらには水書用筆を活用した模擬授業、毛筆による筆使いの練習を行いました。午後は「書きぞめの基本」について、書きぞめの指導方法や今年度の書きぞめの課題の書き方について、実技を交えながら研修を行いました。参加した先生方の熱心な研修態度に感心させられました。

また、11月28日には4年ぶりに書写授業研究会を加須市立豊野小学校にて開催し、25名の先生方が参加しました。小学校1年生の水書用筆を使用した授業を参観できる貴重な機会であり、研究協議、講師の指導も含めて大変実のある授業研究会となりました。

結びに、平素より埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会の皆様に御指導を賜り、また各地区の先生方の御協力に厚く御礼申し上げます。本研究集録が県内の先生方にとって、書写の指導力向上の一助となることを期待しております。

書写教育研究会事業報告

(令和5年度の概要)

1. 役員会の概要

(1) 4.26(水) 理事会

県民活動総合センター

○県硬筆展覧会開催要項・審査規程審議

(2) 5.12(金) 総会・研究協議会・講演会

県民総合活動センター

○総会・研究協議会・講演会

(3) 6.7(火) 常任理事会

秩父市立高篠小学校

○県硬筆展覧会本部・開催地区協議会

○本部事務分担並びに計画

○県書きぞめ展覧会語句選定

・開催要項案作成

(4) 6.20(火) 理事会

秩父市原谷公民館

○県硬筆展覧会作品審査会

○県書きぞめ展覧会開催要項案審議

(5) 10.3(火) 理事会

県民活動総合センター

○県書きぞめ展覧会開催要項

・審査規程審議

(6) 11.15(水) 常任理事会

さいたま市立岩槻小学校

○県書きぞめ展覧会本部・開催地区協議会

○県硬筆展覧会語句選定・開催要項案作成

(7) 1.24(水) 書きぞめ審査会

さいたま市立岩槻小学校

○県書きぞめ展覧会作品審査会

2. 研究発表会の概要

(1) 小中高等学校書写書道教育研究協議会

県民総合活動センター

○期 日 令和5年5月12日(金)

○研究発表者・発表テーマ
「行事の指導と学習意欲の向上
～ ICT・水書・話し合い活動を活用して～」
入間市立野田中学校
武井 成臣先生

○講演
・講師
文教大学 非常勤講師
荻田 哲男先生

3. 研修会の概要

- (1) 実技研修会
越生町中央公民館
- (2) 埼玉県書写教育研究会委嘱授業研究会
加須市立豊野小学校
- (3) 各地区書写実技研修会・授業研究会

4. 展覧会の概要

- (1) 第 61 回 硬筆展覧会
秩父市文化体育センター

○出品点数		
・推薦賞	小学校	256点
	中学校	118点
・特選賞	小学校	1036点
	中学校	480点
・優良賞	小学校	1296点
	中学校	600点
	合 計	3786点

○課 題 次 頁

- (2) 第 76 回書きぞめ展覧会
さいたま市立岩槻小学校

○出品点数		
・推薦賞	小学校	115点
	中学校	72点
・特選賞	小学校	465点
	中学校	289点
・優良賞	小学校	581点
	中学校	362点

合 計 1884点

○課 題 次 頁

- (3) 令和 5 年度 教職員書道展覧会〔中止〕

5. 研究刊行物

- (1) 「研究集録」第 61 号の発行

※令和 5 年度埼玉県硬筆展覧会課題執筆者

小 1	幸手市立上高野小学校	中島奈緒子先生
小 2	加須市立豊野小学校	大澤美和子先生
小 3	加須市立豊野小学校	大澤美和子先生
小 4	幸手市立上高野小学校	中島奈緒子先生
小 5	所沢市立牛沼小学校	三上 陽照先生
小 6	所沢市立牛沼小学校	三上 陽照先生
中 1	杉戸町立杉戸中学校	関根 祐介先生
中 2	ときがわ町立玉川中学校	福田 英正先生
中 3	杉戸町立杉戸中学校	関根 祐介先生

※令和 6 年埼玉県書きぞめ展覧会課題執筆者

小 3	越谷市立大沢北小学校	鈴木 和子先生
小 4	さいたま市立春野中学校	齊藤 裕子先生
小 5	北本市立東小学校	熊切 優子先生
小 6	さいたま市立春野中学校	齊藤 裕子先生
中 1	杉戸町立杉戸中学校	関根 祐介先生
中 2	杉戸町立杉戸中学校	関根 祐介先生
中 3	ときがわ町立玉川中学校	福田 英正先生

令和5年度 硬筆・書きぞめ展覧会課題

第61回硬筆展覧会課題

小三 金子 美知代
六月十三日(火)
明日はプール開き。とても楽しみです。
たくさん練習して泳げるようになることが目標です。

小二 わたなべ 大すけ
くまの子どもが
目をさました。
白くまぶしい光
がやさしくふりそ
そぎました。

小一 なかい けんや
うめ さくら
ふじ

小六 石川 友馬
古来、わが国の農業は、水田での米づくりを中心に発展してきました。水田はわが国の気候風土に適しているばかりでなく、土の中に養分をためて連作を可能にしました。水をたくわえる役割も果たし、たくさんすくえた点を持っています。

小五 大月 文香
学校の図書館には、本の貸し出しの他に、学習情報センターとしての役わりもあります。さまざまな資料を活用して、授業で学んだことをさらに調べてみましょう。

小四 守山 京子
どうしてアリは働き続けるのかな
いつ見てもいそがしそうに仕事をしている
力を合わせて
大きな虫を動かすよ

中三 関口 浩
——人生とは選択の連続である——
「ロミオとジュリエット」で有名なシェイクスピアが残した言葉である。
今年、進路選択がある。
そのためには何をすべきか、親や先生、先輩などに意見を聞いて参考にすることは必要だ。しかし、それ以上に大切なのは自分では断ることを決断することだと思う。進路についてよく考えて人生の選択をしよう。

中二 中川 広太
秩父地方は、雄大な山脈から流れ出る荒川と河岸段丘が見られ、広大な盆地が広がる。近くには武甲山がそびえる。
1998年に雁坂トンネルの工事が終わり、埼玉から山梨へ一気に通り抜けられるようになった。
楊本間所や滝沢ダムなどに寄り道しながら、大自然を眺めるハイキングはすばらしい。
秩父が見せる四季折々の風景を楽しんでほしい。

中一 関根 昂生
拝啓
校庭のひまわりが咲き始める季節となりました。先生におかれましては、お変わりなくお過ごしでしょうか。
さて、九月六日に市民会館で地域の交流会が行われます。私たち書道部も硬筆作品を出品します。ご都合がよろしければぜひ見に来てください。来賓になりますが、夏風邪には十分に気をつけてください。
敬具

第76回書きぞめ展覧会課題

小三 せかい 石川 みく

小四 竹うま 太田 直人

小五 春まつ心 上川 真由

小六 自然の美 西森 建司

中一 平和の光 村主 恵子

中二 夢の実現 山川 泰子

中三 文化の伝承 上村 美子

令和 5 年度

埼玉県連合教育研究会 研究発表

加 須 支 部

「主体的・対話的で深い学び」を目指した書写授業の展開

加須支部

加須市立豊野小学校 松 本 学 美

1 はじめに

本年度、加須支部が埼玉県書写教育研究会の授業研究会実施支部となり、令和5年11月28日（火）に本校で公開授業を行った。

今回、書写の授業を行うにあたり、2つの

意図をもって授業を行った。1つは「サインペン」と「水書用筆」を併用した書写授業。もう1つは「主体的・対話的で深い学び」を目指した書写授業を展開することである。

2 授業実践

第1学年1組国語科書写学習指導案

- 1 単元名 かん字の学しゅう ⑤かきぞめ
- 2 児童の実態と本単元の意図 ～ 略 ～
- 3 単元の目標 ～ 評価規準参照 ～
- 4 単元の評価規準

知識及び技能	主体的に学習に取り組む態度
①姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書いている。 (3) ウ (ア)	①点画の書き方や文字の形に注意しながら、進んで学習課題に沿って文字を正しく書こうとしている。
②点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書いている。 (3) ウ (イ)	〈主体的に学習に取り組む態度〉
③点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して文字を正しく書いている。 (3) ウ (ウ)	

- 5 指導計画（11時間） ～ 略 ～

- 6 本時の学習指導（9/11時）

（1）目標

- サインペンを正しく持ち、書き順や字形（「とめ」「はね」「はらい」）に気をつけて、丁寧に書くことができる。

（2）評価規準

～ 展開参照 ～

（3）展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 本時の課題を知る。	○姿勢 ○書きぞめの意義 ○学習の見通し	○「しょしゃ体操」を行い、リラックスした状態で集中力を高め、授業に臨むようにさせる。 ○書きぞめは、日本の伝統的な正月の行事であり、本時はこれまでの学習の応用・まとめとして、サインペンで『お正月』と書くことを知らせる。	3

もじのかたちや大きさ、「とめ」「はね」「はらい」にきをつけてかこう。		
2 『お正月』を試書する。	○『お正月』の書き順 ○サインペンの持ち方	○教師の示範を見て、書き順を確認しながら空書する。 ○サインペンの持ち方は、鉛筆と同様であり、軽く持って書くことを伝える。
3 試書と規準の文字を比べて話し合う。	○文字の比較による確かめ方	○本時の課題に立ち返らせ、試書と規準の文字を比べさせる。 ○試書作品を批正させ、自分の課題を見出し、友達と話し合う。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の課題を見つけることができた児童をB評価とする。 〈教師の観察〉 ☆児童への手立て 「A」→友達が気がつかないよさや課題はないか声をかける。 「C」→具体的な点画を示し、考えさせる。
4 練習する。 ①水書用筆で書く ②サインペンで書く	○筆記用具の持ち方 ○字形 ○「とめ」「はね」「はらい」の書き方 ★始筆「とん」 そっとおく。 ★送筆「すう」 すうっと進む。 ★終筆 ・止め「ぴた」 ・はね「ぴょん」	○水書用筆で始筆から送筆・終筆を意識して書き、サインペンでも同じ感覚で書けるようにするため、水書用筆とサインペンを交互に使い練習させる。 ○適切な練習用紙を選ぶよう助言し、個々の課題に沿った支援を行う。 【知・技① ② ③】 サインペンを正しく持ち、書き順や字形（「とめ」「はね」「はらい」）に気を付けて書いている児童をB評価とする。 〈教師の観察・練習用紙〉 ☆児童への手立て 「A」→始筆・終筆の位置を意識するよう声をかける。 「C」→「とめ」「はね」「はらい」ができない児童の手を取り、水書用筆で運筆の感覚を体感させる。

5	まとめ書きをする。		○学習したことを活かして書く。	5
6	本時の学習を振り返る。	○文字の比較による確かめ方 ○自己評価、相互評価	○試書とまとめ書きの違いに気づかせる。 ○試書と比べてよくなった点を見つけ、本時の学習で身に付いたことや今後活かすことなどについて考えられるようにする。	5
〈期待される児童の反応〉 ・『お』のはらいの向きに気をつけて、「すうっ」とはらうことができました。 ・『正』の横画の長さに気をつけました。 ・『月』のはねるところを「ぴょん」とはねることができました。 ・『月』の形が縦の長四角になりました。				
7	次時の課題を知る。		○次時では、これまでの学習を活かし、まず目用紙に文を書くことを伝え、次時の学習に意欲をもたせる。	2

3 指導講評（抜粋）

（文教大学・成城大学講師、

埼玉県書写書道教育連盟顧問 荻田 哲男先生）

- ・ 本時は、字形についての学びや相互評価等よく行えていた。中学校での指導を見据え、児童の実態に合わせてどんどん指導していただきたい。各学年の目標を確認することは大前提。
- ・ 鉛筆キャップ型の水書用筆の効果的な実践であった。書写の授業では字形指導にいきがちだが、運筆の上下運動を的確に教えることが大切。
- ・ 本時の展開が書写の基本的な指導過程。次は、日常に活かすことが大切。
- ・ 手本ではなく「基準」。正しい用語の使用をお願いしたい。
- ・ 教師が基本に立ち返ることの重要性を認識すること。基本点画、筆順等の確認を。

4 おわりに

水書用筆とサインペンの併用は、児童の運筆技能の習得に有効であった。

また、基準と自分の文字を比べて批正し、自己評価と相互評価を大切にすることで、整った文字を書こうとする意欲を高めることができた。他教科との関連も図りながら、今後も「主体的・対話的で深い学び」を目指した書写授業を展開していきたい

学んだことを日常に役立たせる書写の授業

加須支部

加須市立昭和中学校 安 藤 美 幸

1 はじめに

I C T化が進み、手書きに触れる機会は減りつつある。年賀状は数十年も前から活字で印刷されたものが一般的になり、現代では、生活をする上でスマートフォンが欠かせなくなった。パソコンでのメールのやりとりも日常のこととなっている。また、近隣の高等学校では、タブレットを各自で購入しており、板書されたものを紙のノートに写すことはしていないという。とはいうものの、手書きの温かさは誰もが認めるところである。手書き文字は、書き手の思いが受け手に十分伝わるというよさがあり、このよさを生徒にも実感させたい。

本校では、今年度、4年ぶりに第2学年の生徒が職場体験学習を行った。これを良い機会と捉え、お礼の手紙を書く授業を進めたいと考えた。

2 生徒の実態

本校は、加須市の中心部に位置する全校生徒622名の大規模校である。今年度は、「あいさつ日本一昭和中」というスローガンを掲げ、職員も含めて全員が爽やかな挨拶を心がけている。素直で真面目な生徒が多く、授業にも積極的に参加している。また、硬筆の授業では、1時間集中して静かに取り組むことができる。

しかし、そこで学習したことが普段の生活で活かしきれていないのが現状である。ノートや提出物の文字にどれだけの目的意識、相手意識があるのか甚だ疑問である。さらに、以前は年末が近づくとお互いに住所を教え合う姿が教室で見られたのだが、最近はスマートフォンで新年を祝うのが生徒の間では普通のようなのである。

そのような中、4年ぶりに職場体験学習が実施されたので、これまで学習してきた知識や技能を活かして書くことを意識しながらお世話になった方々にお礼の手紙を書かせたいと考えた。

3 本校の研究主題との関連

本校では、「確かな学力をはぐくむ指導方法の工夫・改善 ～主体的・対話的で深い学びを追究する学習過程の工夫～」をテーマにして研究を進めている。

国語科における「確かな学力」とは、国語科で育成を目指す資質・能力と捉える。中学校学習指導要領（平成29年告示）の書写の項目を念頭に置き、指導していく。目的意識と相手意識を自覚させ、主体的に学習に取り組ませたい。また、相互評価を通して、身に付けさせたい力を確実に身に付けさせるようにしたい。

4 具体的な取組

単元名「職場体験でお世話になった方々にお礼の手紙を書こう」

(1) ねらいを知る。

まずはじめに、職場体験でお世話になった方々にお礼の手紙を書くことを生徒に伝える。目的意識と相手意識をもたせることにより、どのように手紙を書いていけばよいのかを明確に自覚させることができる。

次に、書写の教科書を見ながら、これから自分が書く手紙がどのようなものなのかイメージさせる。書写の教科書のページは職場体験の打合せについての内容となっているが、国語の教科書には、お礼の手紙の書き方例が載っているので、そちらも参考にさせた。2つの教科書を見ながら、「難しそう。」「書けるかなあ。」と不安を口にした生徒も少なくない。

かった。しかし、ここで学習しておけば将来さまざまな場面で活用できることを伝え、「頑張ってみる。」と前向きな発言があった。

(2) 何を書くか考える。

自分が書いた手紙を読むのは職場の方々であること、お礼の手紙であること等を意識させ、どのように書けば相手に感謝の気持ちが伝わるかを考えさせる。

①手紙の構成要素を確認する。

頭語と結語の組み合わせは、「拝啓」と「敬具」でそろえることとした。時候の挨拶や相手の安否を尋ねる文については、タブレットを使いながら例を調べたり、自分なりに言葉を工夫したりしていた。11月初旬に郵送することを確認し、適した言葉を選ばせた。



②本文を考える。

体験させていただいたことを具体的に思い出し、その時に感じたことや職場の方々の姿を通して感じたことなどを書くように指導した。また、相手が大人であることも考慮し、言葉遣いについても気を配るよう、机間指導の中で個別に指導するようにした。

③結びの言葉、後付けを確認する。

結びの言葉も各自タブレットで調べさせた。たくさんの例があるため、言葉選びに迷う生徒が少なからずいた。しかし、仲間と話し合うことで、使いたい言葉を選ぶことができた。読む相手の状況や思いを想像しながら言葉選びをする生徒の姿が多数見られた。



④封筒の宛名を書く。

封筒のどこにどの大きさで書いたらよいのかを書写の教科書で確認しながら、心を込めて丁寧に書かせた。

(3) 気持ちを伝えるために配慮することを話し合う。

①筆記用具

縦書きの便箋は教師が準備をした。筆記具については考えさせた。総合的な学習の時間等で新聞作りやレポートを作らせることが多いが、そのたびに生徒に質問されるのが筆記具のことである。特に、「ペンで清書しますか。」はよく聞かれることの1つである。

今回は、どんな筆記具が適しているかをグループごとに話し合わせた。消せるボールペンについての意見も生徒から出された。

②文字の大きさ、形、書体等

楷書と行書のどちらが適しているのか。また、漢字と平仮名の大きさの違い、文字の中心を揃えること等、校内硬筆展覧会に出品するために練習した時のことを思い出させた。その後、書写の教科書で確認させたが、「気を付けることがたくさんあることがわかった。」と発言する生徒が多かった。

③心構え

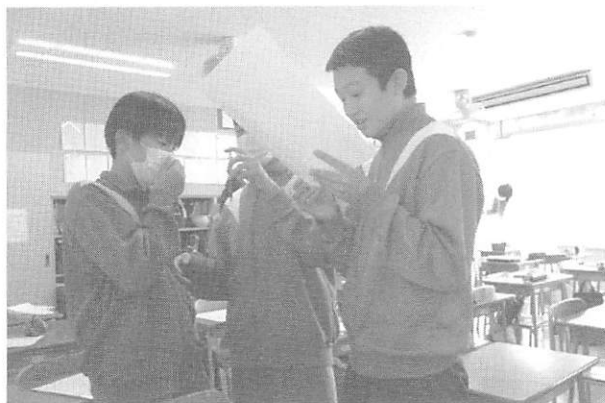
感謝の気持ちを伝えることが目的であることを踏まえ、どのような姿勢で書くべきかを考えさせた。「丁寧に書くこと」「正しい姿勢で書くこと」「最後の行まで真剣に書くこと」といった発言があった。

(4) 下書きをする。

鉛筆で下書きをした後、グループで、誤字脱字はないか、文字の大きさのバランスや中心線を意識しているか、丁寧に書かれているか等をチェックし合った。

(5) 清書をする。

清書用の便箋にペンで丁寧に書き、お互いに見合う。封筒にも宛名を書き、提出する。



清書する際には、書写の時間に学んだことを活かして書くことを最も大切にするように指導した。相互評価の場面では、「ノートの字よりもきれいだ。」「漢字を大きく書こうとしている。」「線と線の間を中心を揃えて書くのは難しいけれど、できると嬉しい。」といった感想を伝え合う様子が見られた。

また、封筒の宛名を見せ合いながら、「これなら郵便配達の方も困らない。」と話す声も聞かれ、楷書で丁寧に書くことは思いやりにもつながるということに気付く生徒も見られた。

生徒にとってこの学習は初めての課題であり、難しいと感じる者も多かったようである。言葉遣いに気を配り、相手のことを考えながら丁寧に手紙を書く活動を終えて、「大人になった気分だ。」「社会に出てから困らないと思う。」「また書いてみたい。」等と、達成感を味わった表情で誰もが笑顔でお礼の手紙を提出することができた。

5 おわりに

書写の授業を進めるにあたり、「既習事項を確認し、それらを活かしながら学習を進める

こと」「目的意識と相手意識を生徒に自覚させること」を常に考えながら指導するよう努めてきた。生徒は、書いたことのない形式的な手紙の書き方を学んだことで、次の機会に活かせることを実感することができた。さらに、作り上げた手紙を見て達成感と満足感も味わうこともできた。

「正しい姿勢」や「漢字と平仮名の大きさ」といった基本的なことは、引き続き気付いたときに何回でも指導していく必要がある。その上で本時の学習のねらいを1時間1時間確実に達成できる授業を展開していきたい。

今回、生徒は、手書き文字のよさを実感することができた。だからこそ日常生活で役立たせてもらいたいと願っている。

授業、テスト、部活動、塾、と慌ただしい生活を送っている中学生達である。落ち着いて何かをする時間が増えると気持ちも落ち着く。彼らが心静かに丁寧に文字を書く時間は貴重な時間である。書写の授業や展覧会に出品するための練習時間の他にも、真剣に書く時間を確保することが教師の役目である。他教科との関連、学校行事との関連等を考えると、学校内全教職員の共通理解が欠かせない。

授業では、積極的なICT活用は当たり前となっている。スマートフォンやタブレット等の便利な情報機器の活用と手書きの使い分けが適切にできる生徒の育成が求められる。書写の授業の果たす役割は大きい。知識・技能の確実な定着を目指した書写の授業を展開し、手書きのよさを今後も伝えていきたい。



令和 5 年度

埼玉県書写教育研究会 研究発表

志 木 支 部
川 越 支 部
越 谷 支 部

学校間共有フォルダ等を活用し支部全体で取り組む書写の授業 ～多分野への教育効果を書写から育むことを目指して～

志木市立宗岡小学校 西 本 啓二郎

1 はじめに

志木支部では、ここ10年ほどで経験年数の多い教諭が退職し、若手教員が増えた。このことも踏まえ、書写の授業をどの教諭もやりやすいように、各校の書写主任が中心となってお互いの提供できる授業で使える資料や実演動画を「学校間共有フォルダ」に共有し、教諭全員がいつでも使えて児童全員に一定レベル以上の授業が提供できるように確認し合いながら研修を進めている。

また、書写の授業を通して、「書写の目標」とどまらず、様々な観点からの可能性を踏まえ、児童を伸ばせるように意見を出し合いながら児童に向けた動画資料を作成している。ここでは、その中でいくつかを紹介していきたい。



2 具体的な例

【全学年共通】：「鉛筆の持ち方」

全学年を共通して取り組んでいるのが、鉛筆の持ち方である。鉛筆を正しく持てることでもたらされる有益性として、

- ① 疲れないで書き続けられる
- ② 正しい点画で速く書ける
- ③ 姿勢が良くなり視野が定まって集中力が上がる
- ④ ①～③などにより文字や数字などを、正し

く綺麗に読みやすく書ける

(→書写の目標にも重なる)

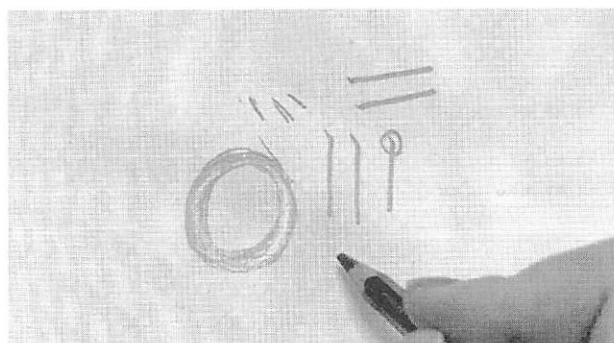
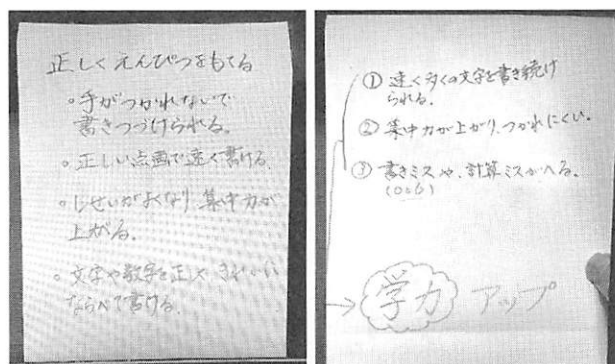
があり、更にまとめて発展させると、

(1) 速く多くの文字を正確に長時間書き続けられる

(2) 集中力が上がり、疲れにくくなる

(3) 書きミスや、計算ミスが減ることに繋がる

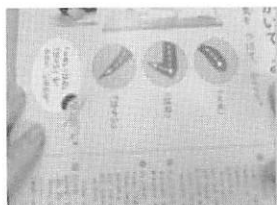
ことにより、最終的に「学力の向上に繋がる」ことになる。支部では「書写の目標を達成することにより児童全体の学力が底上げされる」ことまでを視野に入れて説明動画を作成し、書写以外の授業でも常に持ち方を意識して「速く綺麗に」書けることを目指している。



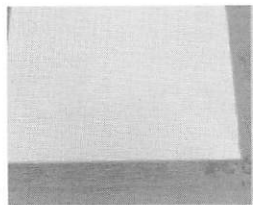
【1・2年生】：「水書を用いた指導」

1・2年生の指導で、特に支部で重点を置いて取り組んでいるのが「水書用具を用いた指導」である。1・2年生が水書用具を用いた授

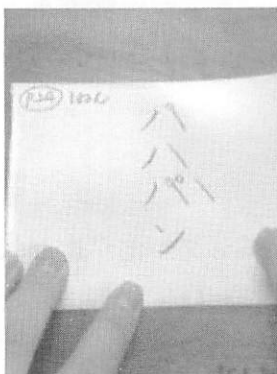
業に取り組んだ頻度については毎年各校でアンケートを取り、活動状況を把握している。これを踏まえ、支部の全児童が水書の有用性を味わい硬筆に活かせるように情報提供や指導にそのまま使える動画を作成している。



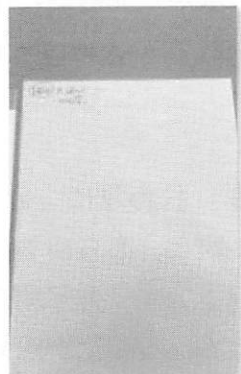
水書①.mp4



水書②.mp4



水書③.MP4

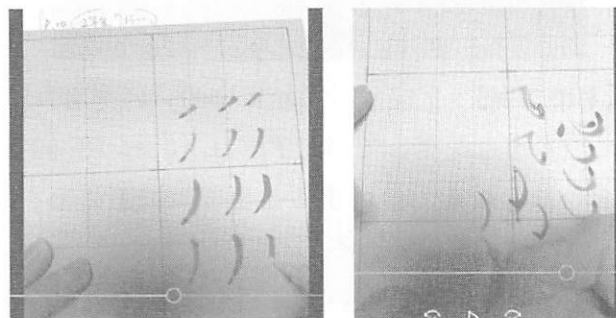
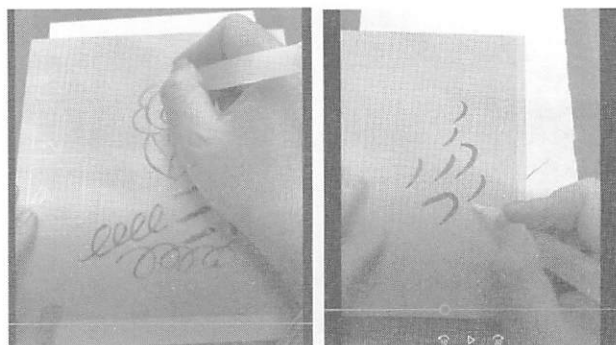


水書④.mp4

特に、

- ①水書用具は、文字の点画を書く上で「リズム・筆圧・点画の正確性」を習得する時期にとっても有効な補助教材であるため、1年生の4月には購入して使えるようにすること
- ②教科書では最後に紹介コーナーのような形で載っているが、1年生の1時間目に紹介して「線の練習」の授業から補助教材として扱い、色々な線を出すときの感触を確かめるのに年間指導計画に組み込んで扱うこと
- ③硬筆展やフェルトペンの授業でも、ひらがなと漢字の書き分けや苦手な線の克服に副教材として扱うこと

などを共通理解し、1年生・2年生の初めの方の単元ではどの教諭も授業での扱い方を理解してそのまま使えることもできるように、実際に使う場面の指導用動画をサーバーで共有している。



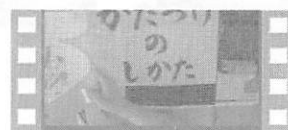
【毛筆指導】：「準備・片付け動画」の配信

小学校3年生初期の毛筆指導では、「準備」や「片付け」の指導に時間がかかる。またクラスごとにやり方が違うと、次年度のクラスになったとき合わせるのが大変で、特に若手の教諭にはかなりの負担であると考えた。

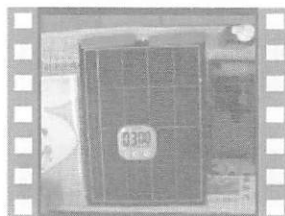
そこで、どの教諭も使えて、動画を流せばそのまま授業に反映でき、児童にとってもスムーズに毛筆の「準備」「片付け」ができる動画をサーバーで共有している。



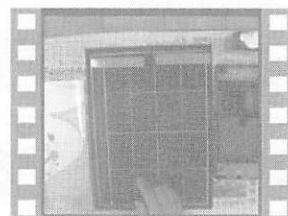
毛筆①準備の仕方ショート版.MP4



毛筆②片付けの仕方動画：説明入り.MP4



毛筆③片付けの仕方2-1 ③の説明.MP4



毛筆④片付けの仕方2-2：3分アタック！！.MP4

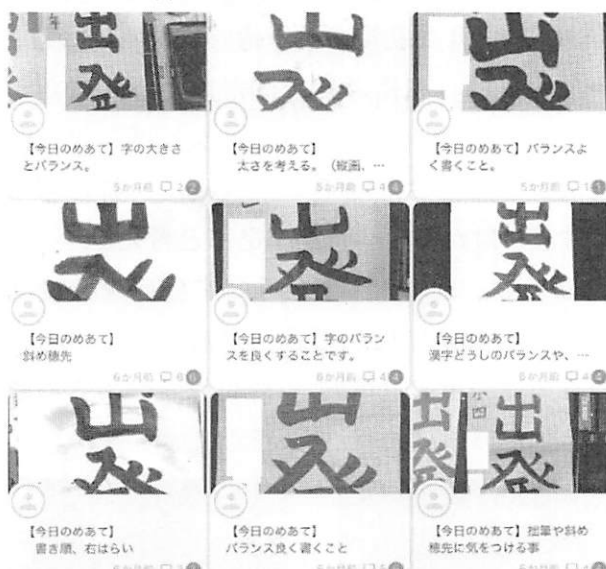
また高学年向けには「片付け3分アタック」という動画を作成し、ゲーム感覚で3分以内に片付けを終われるようにしている。



【毛筆指導】：アプリ「ClassCloud」の使用

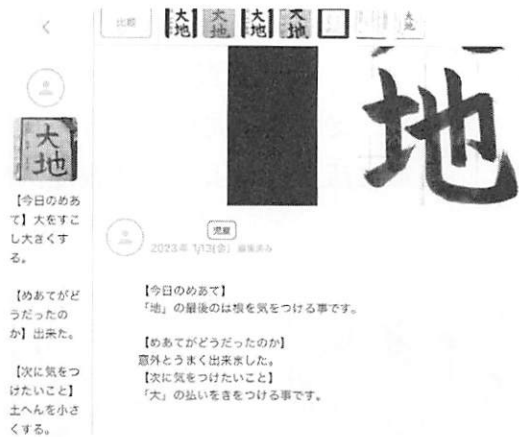
志木市と提携しているアプリ「ClassCloud」を毛筆の授業で使用することで、以下の事ができるようにしている。

① ipad で、本時に書いた文字を撮影し、「Class Cloud」に入れて本時の目当てと達成度、振り返りを行えるようにしている。



②教員が、画像を見てコメントできるようにしている。

③児童相互に、目当てに向けた達成度を認め、助言し合うことができるようにしている。



④次時で、前時のコメントやアドバイスをしながら発展的に学習し、まとめの硬筆まで載せてポートフォリオとして記録に残せるようにしている。

3 おわりに

現在、あらゆる分野でデジタル化が進む状況下では「書写教育の意義」自体にも従来とは異なる変化が求められていると考える。これからの書写教育では「字を綺麗に書けるようにする技術習得」だけではなく、その学習効果がいかに日常的能力へ昇華されてさらには心身の発達や学力にまで影響を及ぼしうるかまでをも見直すべきであると考えます。

また書写の活動は「常に考えて分析する」思考解決的活動でもあり、書写の時間は「分析力・洞察力を獲得できる時間」にもなり得る。そして「書くこと」とは「伝え合う」行為の一つであり、その過程には「自他を尊重し合い人間関係を育成する力」をも伸ばせる可能性が大いに隠されている。これも「手で文字を書く」事と「機械で文字を打ち出す」事との教育的意義の差であると考えます。書写指導がいかに全教育活動に関わっているのか、その価値の高さと意義深さを教員一人一人が認識し、指導を行っていくことが大切であろう。

生徒間の交流を通して主体的に学習に取り組む書写指導

志木市立志木中学校 小 谷 啓 治

1 はじめに

「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」において、「書こうとする文字の字形を整えること、全体に対してそれぞれの文字の大きさや書くべき位置を考えて調和的に割り当てること、文字と文字との間の空け方や行の中心の取り方、行と行の間の空け方などについての具体的な方法や効果を理解すること」とある。この事項は、中学 3 年間の書写の学習の基礎であり、日常生活で字を書く際にも重要である。

今回の実践では、中学校 1 年生の 1 学期における硬筆の学習において、前述の内容をどのようにして生徒に自ら意識させるかを考えた。その際、例年書写の作品を掲示しておく、生徒たち同士で互いの作品について論評する姿が見られることを思い出した。そこで、授業内で互いの字や作品について話し合わせる機会を多く設定することで、教師が教え込む形ではなく、生徒たちが主体的に学習内容事項に取り組めるのではないかと考え、実践を行った。

2 具体的な取り組み

全 5 時間で計画した。

第 1 時 導入 「字」についての交流

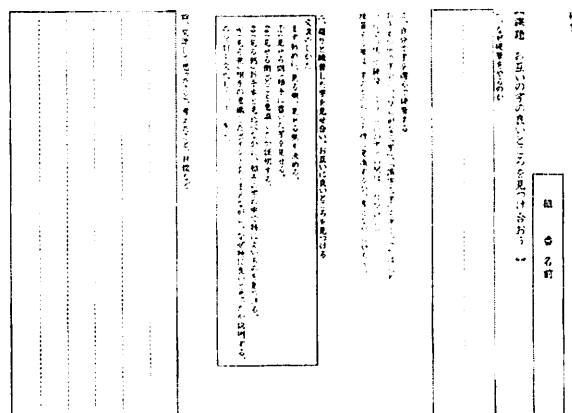
第 2 時 「行」についての交流

第 3、4 時 「文章全体」についての交流

第 5 時 作品作り（まとめ書き）

(1) 第 1 時

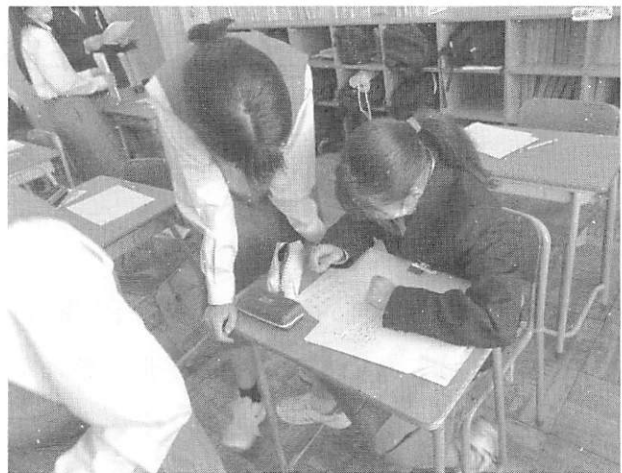
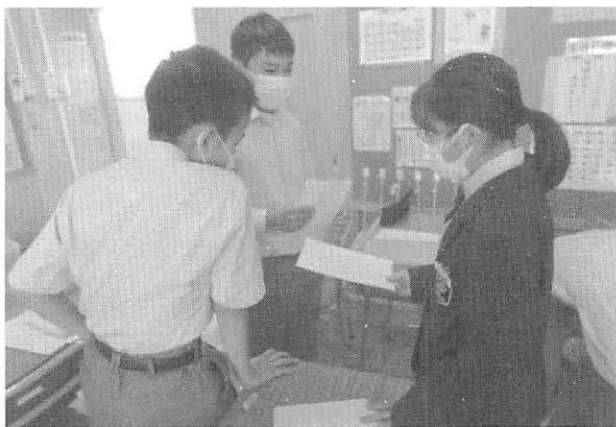
授業の導入として、デジタル化の進む中で、硬筆を行うのはなぜかを考えさせた。硬筆に対して否定的な意見も出るかと思ったが、前向きな意見が多く、「字がきれいだと、印象が良くなる」や「手書きがきれいだと相手に真心が伝わる」、「字をきれいに書こうとすることで集中力が磨かれる」などの意見が出た。



生徒同士で交流させるにあたって、第 1 時では、各自基準の中から好きな字を選ばせて書かせた。初めてのペンによる硬筆であること、書きあげるまでの時間に生徒ごとで大きく差が出てしまうこと、交流時に話し合う観点が多くなりすぎてしまうこと等から、第 1 時では字のみを書かせた。また交流するにあたって、字のどこを意識したかを伝えられるよう、考えながら書くように指示を出して、字を書かせた。

交流の際は、基準とよく見比べて、相手の字の良いところを伝えたり、アドバイスした

りするように指示を出した。交流を始めると熱心に相手の字を見る生徒や、基準と照らし合わせながら意見を交換する様子が多く見られた。交流後の感想には、「字の特徴をよく捉えていて上手だった」や「自分とは違う部分を意識していたので参考になった」など、一字一字に対して注意深く見ている様子が見られるものが多かった。字形を整えることについて意識を向けているものも多く、中には『わ』の1画目は少し内側に曲げた方が、バランスが取れる」や『域』という字の偏を短くした方がいいとアドバイスもらった」など具体的なものも見られた。また、「上手な子が多く、自分も頑張ろうと思った」や「自分の字をほめてもらえてうれしかった」といったものも見られ、意欲の向上に繋がる交流も多く行われていた。



(2) 第2時

第2時では、前時の感想の中から全体にも共有したいことをいくつか紹介した。その後前時より段階を上げて、基準の中の好きな1行を選んで書かせた。その後、前時と同様に交流活動を行わせた。

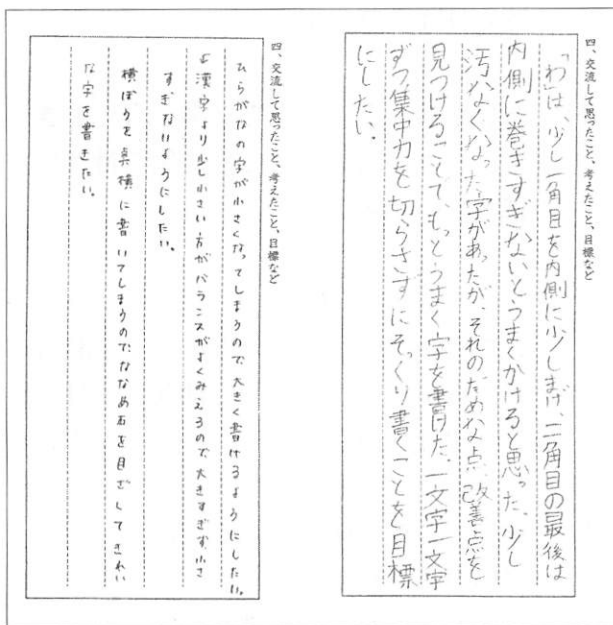
交流の後の感想では、「全体的に右によってしまったので次は中心を意識したい」といった中心の大切さや「ひらがなを漢字よりも少し小さく書くとバランスが取れる」といった文字の大きさについてのこと、「行に収めきると、とてもきれいに見える」といった全体のバランスを整えることなど、注意すべき基本的な事項が多く出ていた。

四、交流して思ったこと、考えたこと、目標など バランスをとるには、上と下、左と右、横と縦、それぞれを揃えることが大切だ。自分や相手の字をよく見て、バランスをとる。『都』の字は、横の線が短い方がバランスが取れる。 自分の字は、もう少し上手に書きたい。	交流して思ったこと、考えたこと、目標など 自分の字は、もう少し上手に書きたい。相手の字をよく見て、バランスをとる。『都』の字は、横の線が短い方がバランスが取れる。 自分の字は、もう少し上手に書きたい。
---	---

(3) 第3～5時

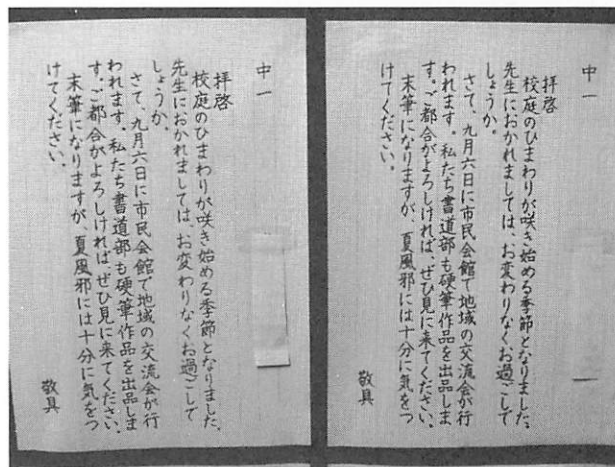
第3、4時は、部分的な練習ではなく、文章全体の練習および、交流を行った。1文字1文字についての感想も多かったが、文字と文字との空間に着目したものも見られ、「上手な人は文字と文字の空白のバランスが取れていた」や「『、』のあとの空間がうまく取れていないので次は気を付けたい」などが見られた。

第5時では、今までの練習や交流を活かし、1時間作品作りを行った。出来上がった作品は、例年に比べ、全体に対してそれぞれの文字の大きさや書くべき位置を考えて書かれたものが多い印象だった。



れているように感じた。生徒が交流を通して、自分の考えを一度アウトプットすることで、考えが整理されたことが大きいと考える。

また、実践を通して私の大きな気づきとなったこととして、生徒の「字を上手に書きたい」という想いは、私が思っている以上に大きいということが挙げられる。毎回の学習の感想において「もっと上手になりたい」や「周りの人はとても上手だったので頑張りたい」、「ひらがなを上手だとほめられたので、次は漢字をもっと良くしたい」といったものが、最も多く見られた。今まで、書写の活動は多くの生徒にとって難しく、あまり意欲のもてないものだと思っていたが、そうではないこと。また、生徒同士の交流を通して意欲の向上が見られることも大きな収穫であった。今後も交流の時間と書く時間のバランスを考えながら、書写指導を行っていきたい。



3 おわりに

今回の実践では、生徒同士の交流と生徒から出た感想の紹介のみで授業を行ったが、生徒たちの気づきだけでも、基本的なポイントは十分に出てくることがわかった。むしろ教え込む形よりも、生徒たちの中で強く意識さ

書写授業を通して、文字を書く楽しさや大切さを指導する工夫

川越市立仙波小学校 白 石 恵美子

1 はじめに

本校は、町の中心に位置する大規模校である。歴史も古く、今年度、創立151周年を迎える。川越市内の中でも児童数の多い学校で、約780名が在籍する。児童は素直で明るく、何事も意欲的である。授業では、川越授業スタンダードを活用し、書写の授業でも、「めあて」「見通し」「対話・協働」「まとめ」「振り返り」を1時間の授業の中で確立している。

児童は、書写の授業で基準を見ながら、美しい字形を書きたいと思い、丁寧に正しく書くようにしている。しかしながら、日常のその他の教科等で、ノートに文字を書くことを苦手としている児童もいる。また、タブレットの活用も多くなり、「筆記」について、意識は薄くなってきたと考えられる。

このようなことから、アンケートをとって、意識調査をした。

2 文字を丁寧に書くことの意識調査

(児童759名 9月実施)

(1) 書写の時間、文字をていねいに書いていますか。

そうである : 61%
どちらかと言うとそうである : 31%
どちらかと言うとそうではない : 6%
そうではない : 2%

・そうであるの理由

丁寧に書くと、見やすく気持ちよい。
基準の字のように書けるようになると、うれしい。

・そうではないの理由

丁寧に書きたいけど、書けない。
遅くなって時間が足りないから。

(2) あなたは、生活の中で文字をていねいに書くことが大切だと思いますか。

そうである : 77%
どちらかと言うとそうである : 19%
どちらかと言うとそうではない : 3%
そうではない : 1%

・そうであるの理由

丁寧に書くと、見やすいから。
丁寧に書いて、褒められると嬉しい。

・そうではないの理由

読めればいいと思う。

(3) あなたは、生活の中で文字を書くときに、とめ、はね、はらいに気を付けて書いていますか。

そうである : 51%
どちらかと言うとそうである : 34%
どちらかと言うとそうではない : 11%
そうではない : 4%

・そうであるの理由

字形が整い見やすい。
テストのためにも意識をしている。

・そうではないの理由

早く書き終わりたいから。
気を付けたいけど、忘れている。

アンケートの結果から、書写の授業を通して、日常でも正しく文字を書く習慣をつけさせ、文字を書く楽しさや大切さを気付かせたいと考えた。

そのため、いつも、日頃から気をつけ、できることから取り組むことを習慣化できるように、指導した。

3 具体的な取り組み

本校では、例年6月に硬筆展、1月に書きぞめ展に向け、全校児童の書写の指導を行っている。まず、基本的な指導が習慣化できるように取り組んだ。そして、書きぞめ展に向けて教員の研修を行った。

(1) 硬筆の授業

① 正しい姿勢で書く。

字を書く姿勢の唱え歌は、年間を通して活用していきたい。

「足はぺったん。背中はぴん。おなかと背中にぐう一つ。紙をおさえてさあ書こう。」

書く前に全員で唱え確認する。また、正しい姿勢は、普段の授業でも活用していった。

② 正しい鉛筆の持ち方

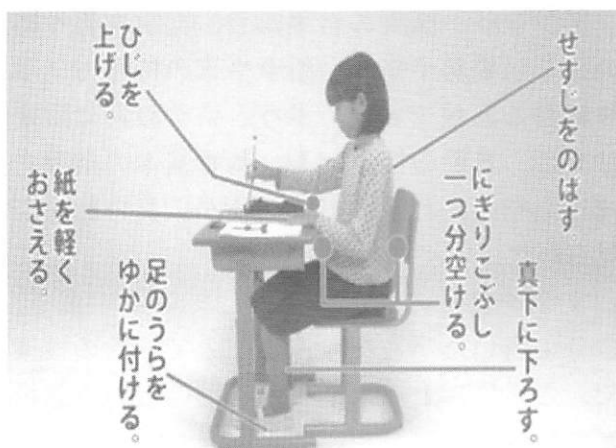
肘を下げて、手首を机面に載せて書く。利き手と反対の手は、軽く紙をおさえる。

鉛筆の持ち方は書写の授業で最も基礎となる内容なので、書くときには意識をさせた。持ち方が違う児童には繰り返し声をかけ、少しずつ直ってきた。

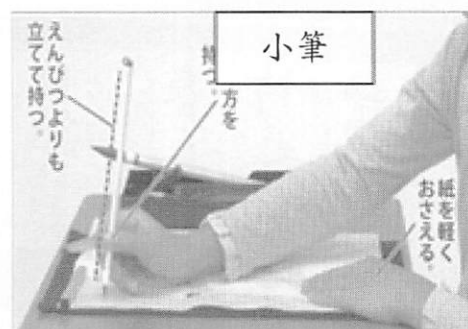
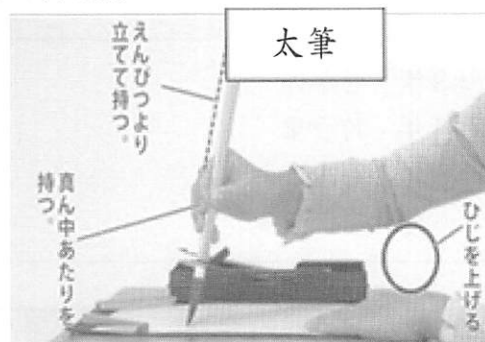
(2) 毛筆の授業

① 書くときの姿勢

硬筆と同じように唱え歌で、姿勢を確かめる。



② 筆の持ち方



二本掛けと一本掛けは、持ちやすいほうを選ぶ。肘を上げ、軸を立てる。肘から手首までの高さが、机面とほぼ平行になるようにする。

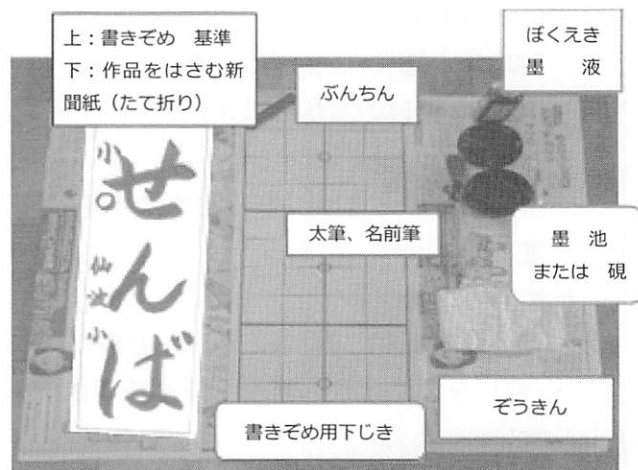
太筆と小筆の持ち方の違いに意識させると、「筆を持つときのポイントがわかった。」という児童が多くいた。

(3) 書きぞめ研修会を行った。

書きぞめ展覧会に向けて、教員の指導を向上させ、児童に指導するポイントを研修した。

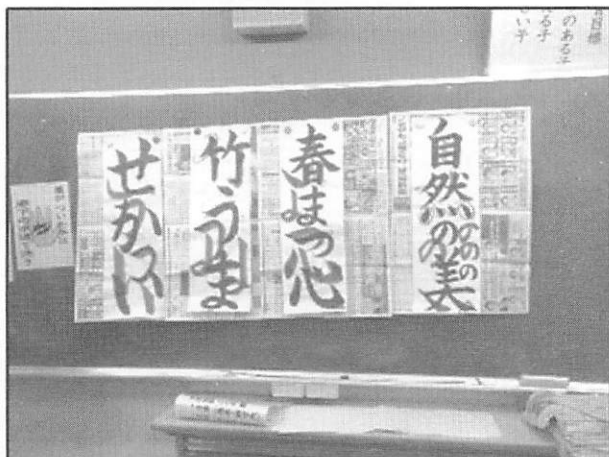
① 書きぞめ準備のしかた

3年生～6年生まで揃える。



② 今年度の書きぞめの課題

- 3年 せかい
- 4年 竹うま
- 5年 春まつ心
- 6年 自然の美



書きぞめ重要ポイント

3年生のポイント

- ・「い」の2画目を伸ばして書くこと。
- ・「か」の1画目は、穂先を回さない。
- ・名前は太く大きく書く。
- ・基準の名前より下には書かない。
- ・墨を泡立てない。

4年生のポイント

- ・「竹」の1画目の払いを長く書く。
- ・「ま」の3画目の曲がり方は、お玉を書いてひらがなの「へ」を書く。

5年生のポイント

- ・「春」の三画目の長さに注意。
- ・「春」5画目の右払いは止めてから、右に抜く。
- ・横画を書くときは、筆の向きは45度で着く。

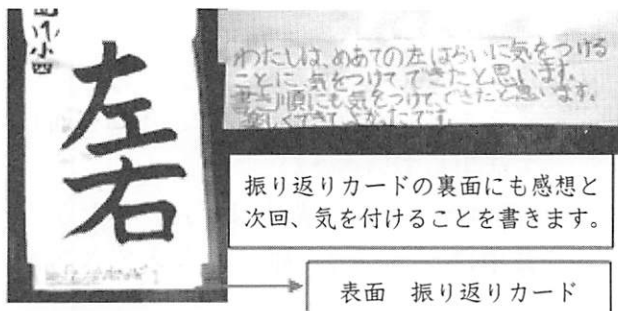
6年生のポイント

- ・「然」の烈火は、大、小、小、大で書く。
- ・「の」を書くとき、筆をぐるぐる回さない。

・ポイントに気を付け、実際に書いてみる。



③その他の取り組み（振り返りカード）



④その他の取り組み（基準を見ず、主体的に取り組む。その後、基準をよく見て、気を付けて書くところに、赤鉛筆で書き込んでいく。）



4 終わりに

アンケート調査の結果から、文字を書く時の正しい姿勢や正しい鉛筆や筆の持ち方に取り組むことができた。書写という教科に限定せずに、普段の授業でも、基礎基本の指導を続けた結果、わずかではあるが、良い結果が見られた。

文字を書くのを、苦手としている児童も、自分の書いた字を振り返ることで、次の授業で、さらに、上手な字を書きたいという意欲につながった。

実践的指導力の向上を目指した市内実技研修

川越市立富士見中学校 安 藤 楓 子

1 はじめに

川越市教育研究会書写部会は、川越市内小中学校全 54 校の書写主任から成る研究会であり、授業研究会や研修会を行うことで研鑽を積んでいる。

直近 4 年はコロナ禍により、授業研究会や研修会を行うことができず、縮小した活動をせざるを得なかった。しかし、本年度は新型コロナウイルスが 5 類に引き下げられたことにより、通常の活動を再開できることになった。

例年は研修会ではなく、授業研究会を主に行っていたが、今年度は書写主任の実践的指導力の向上を目的にし、書きぞめの実技研修会を実施することにした。

2 実技研修会次第等

日時 令和 5 年 11 月 17 日 (金)

14:00 ~

場所 星野学園中学校 書道室

次第 1、はじめの言葉

2、部長あいさつ

3、講師紹介

4、実技研修

5、質疑応答

6、お礼の言葉

7、おわりの言葉

【講師の先生について】

講師：渡邊朋子先生

元 星野学園高等学校書道科教員

現 星野学園中学校教頭

ならびに高等部書道部顧問

毎日書道会刻字部門審査会員も現在務められている。



写真 1 研修会講師 渡邊朋子先生

3 研修会内容

研修会テーマ 「基本的な用筆について」

【用具について】

・墨について

普段の授業では、墨汁を使うで構わない。

※墨の磨りかた

①墨を手前に 45 度に傾けて、円を描くように磨る。

②墨の反対側を同じように傾けて磨る。

③とがっている部分を磨る。

・筆について

筆を柔軟に使うことができるように、根元までほぐす。

使う際は、根元までたっぷりと墨を付け、余分な墨を落としてから書く。

洗う際も、必ず根元まで洗う。

・硯、墨池について

必ずきれいに洗って使う。

【行書について】

・行書は楷書の基本を押さえたうえで書く。
※日常で使われる書体であるから、難しく考えすぎない。

行書の特徴

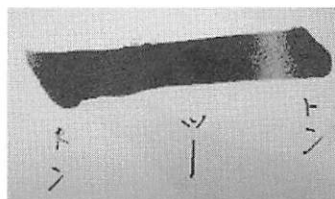
- ・丸みのある字形
- ・曲線が多いという特徴
- ・点画が連続する。
- ・点画の省略がある。
- ・筆順の変化がある。
- ・収筆が変化する。

【基本的な用筆について】

◎基本的な用筆ができれば、どんな文字でも書くことができる。

→ただ単に形を真似るだけではない。

(1) 始筆・送筆・収筆



筆の軸を倒して入り、立てる。→引く。
※トン・ツー・トンのリズムで。

(2) 転折 (おれ)

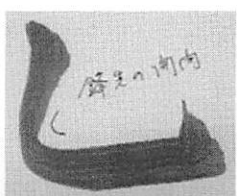


横画から縦画に行くとき、必ずトンと止めて、穂先の方向を変える。



行書の際も同様に、方向を変えるときは、トンと止めてから。筆を浮かせない。

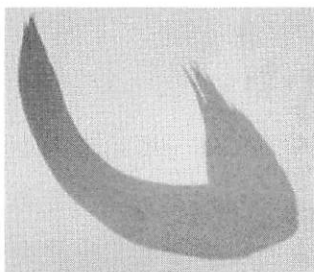
(3) 曲がり



トンと入ったあと、筆の軸を引き上げる。(穂先が開閉し、線が細くなる。)
※筆の穂先の開閉がで

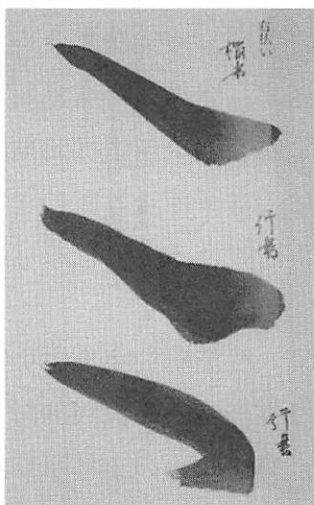
るようにしておくことで、線の太い・細いが出せる。

(4) はね



はねる前に、一度筆を止める。次はどこに向かってはねるかを確認してからはねる。

(5) 右払い



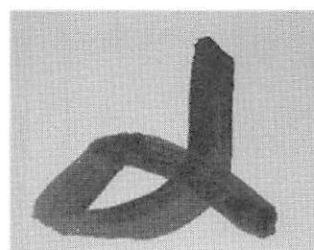
筆先を整えてから入る。

トンと止めてから、力を入れていくと、筆が開いていく。

(穂先の開閉)

行書の際は、最後に払うのではなく、止める。

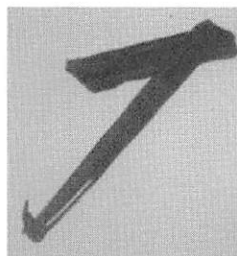
(6) 結び



穂先の反対側を使うイメージで書く。

筆の軸を回しながら書いたり、手首を回して書いたりしない。

(7) 返し



穂先を返して、反対側を使うイメージで書く。

※返しがうまくいくと、次の画の連続もうまくいく。

(8) 点

筆を押し付けて書くのではなく、短い線だと思って書く。

(トンと入った後、穂先の広がりを感じるようにして書く。)

(9) 名前の入れ方

- ・行書の作品は、名前も行書で書く。
- ・本文にかからないように書く。
- ・姓名の途中で切っても構わない。

(10) 左利きの生徒について

最近右に矯正していない生徒も多いため、書写についても左手で書いて構わない。

※墨池や筆をおく場所は左側にすること。

基準は右側にして、すぐに見えるようにすること。

【書きぞめ練習】

参加者それぞれが、自分の指導学年の書きぞめの練習を行った。

実際に書いたものに対して、渡邊先生からご指導をいただいた。



4 参加者感想（一部抜粋）

・基本の用筆からお話いただき、とてもありがたく思います。指導する立場でありながら、筆を使って書くという経験も少なく、苦手としているところではありますが、字を書く楽しさを伝えられるよう尽力していこうと思います。

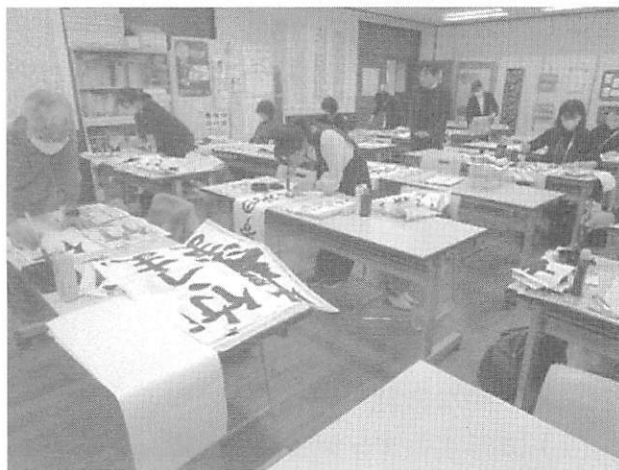
・用筆のポイントは書いてみてこそ筆を押す力加減などがわかるものだ実感しました。先生のお話に引き込まれ、書きたい気持ちが湧いて、夢中で書きました。

・書道の経験が学生の時しかないなか、児童に指導することになり、すごく不安でした。

しかし、今日教えていただいた筆の立て方や、点は線のように止めるなどの具体的でわかりやすい書き方を児童に教えていきたいと思いました。

・実際に書くことで子どもたちにとって、どこが難しいのかなどを理解することができました。

・基本の筆遣いについて学びが多くありました。目で見たとものを、指導に活かす際に、どのように伝えればよいかを言語化されていたのでとてもわかりやすく、すぐに子どもたちの指導に活かせると思いました。



5 おわりに

今回は、星野学園中学校の渡邊先生の全面的な協力のもと、書きぞめ実技研修会を実施することができた。

特に毛筆は、教員自身の得意・苦手の差が大きく、自信をもってなかなか指導できないという参加者もいた。しかし、今回の実技研修会を通し、教員自身の実技能力、実践的指導力も高まったように感じる。

子どもたちが書写への親しみや関心、上手に書けたときの喜びを感じられるよう、今後も教育研究会の活動として、書写の実践的指導力が高まるような取り組みを積極的に行っていきたい。

一人一人が主体的に取り組むことができる書写の授業を目指して

越谷市立北越谷小学校 広 瀬 千 恵

1 はじめに

本校は、低学年の書写は担任が指導しているが、中高学年の書写は一人の教員が担当し、指導する形となっている。今年度書写専科となり、習字の学習に初めて取り組む段階から、中学校の書写へとつなげていく段階までを一貫して指導できるというよさを知った。この利点を活かし、一人一人が落ち着いた態度で、主体的に取り組むことができる書写の授業を目指し、日々の授業を行っている。また書写で学んだ文字の字形を整えて丁寧に書くということを、他の教科や生活のなかでも活かすことを目標とし、指導を行っている。

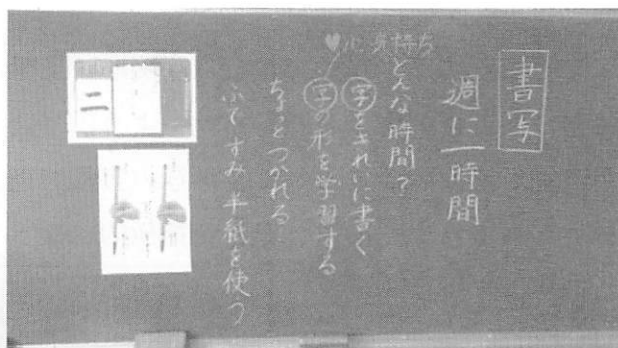
以下は、主に3年生から6年生で実践した取組である。

2 具体的な取組

(1) オリエンテーションの実施

担任が新年度のスタートする日に「学級開き」を行うように、学年が上がり、初めての書写の時間に「書写開き」を行った。

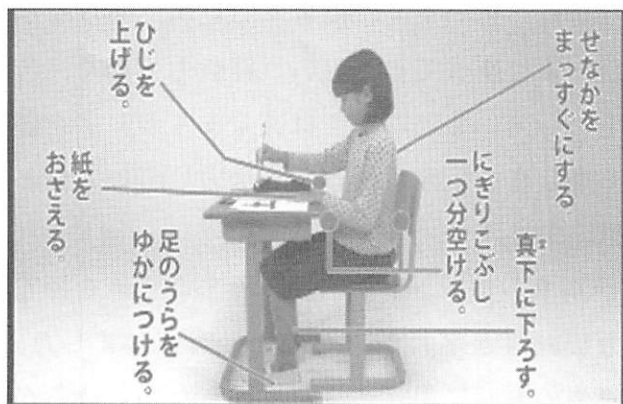
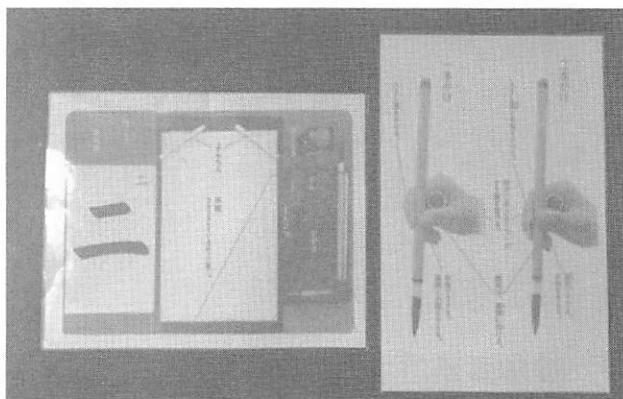
書写の時間は、週に一時間。どのような時間であるかを見童と一緒に考えることから始まった。また一人一人が目標を持って授業に取り組めるよう意欲付けを行うために、書写をどのような時間にしていきたいか、一年を通してどのような力を付けていきたいかを考える時間をとった。



(2) 書く姿勢の指導と書く環境の整備

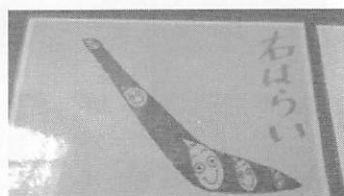
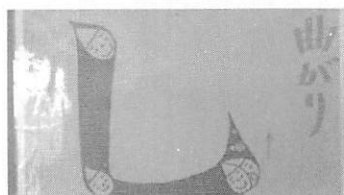
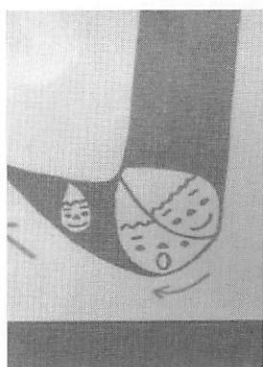
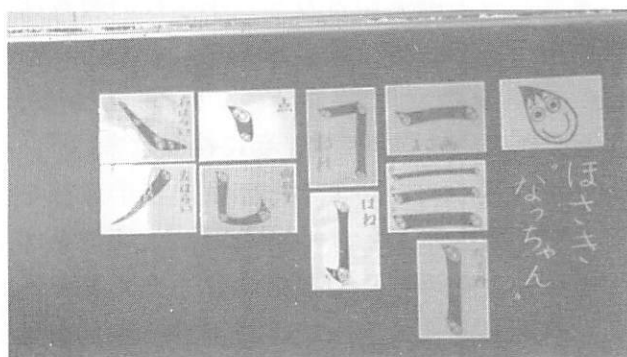
本市では、光村図書の書写の教科書を使用している。どの学年の教科書のはじめにも「書くときの姿勢」と「筆の持ち方」が掲載されている。オリエンテーションの時間はもちろん、書いている時間に、いつも姿勢を意識できるように全体や個人にも声をかけるようにした。また筆の持ち方についても全体で確認した後、書いている時間の机間指導の際に一人一人を見て、声をかけるようにした。

書く環境の整備については、机上の整理整頓をし、道具を揃え、集中して書くことの環境づくりに努めた。



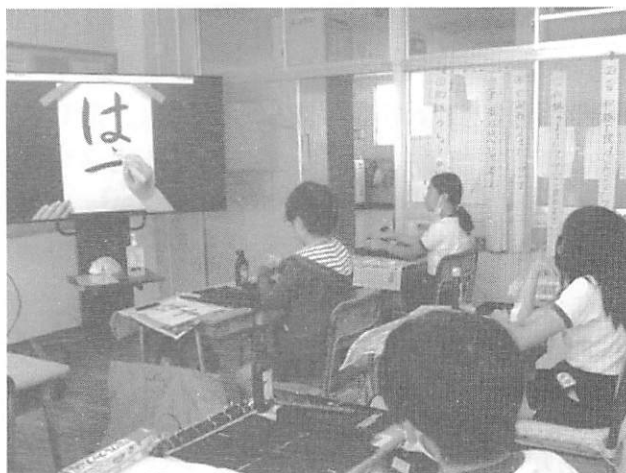
(3) キャラクターの活用

教科書には、筆遣いの説明を分かりやすくするために、筆の穂先の絵が描かれている。それを本校では、キャラクター化し、活用している。筆で字を書くときには、穂先を常にななめ上に向けることを意識させるために「ななめのなっちゃん」と名付けた。「横画」「縦画」「おれ」「はらい」「点」「曲がり」などの点画を書くときに、キャラクターを意識させ、書くように指導を行った。



(4) ICT活用

授業のはじめに課題の文字の筆遣いを確認する際に、黒板を使って説明するだけでなく、大型テレビを使い動画で筆の動かし方を見せるようにした。また書いている途中で筆遣いを確認したいと感じた際には、教科書のQRコードを読み取らせ、各自のタブレット端末で筆遣いを確認させた。



(5) 校内硬筆展・校内書きぞめ展の開催

市内の硬筆展と書きぞめ展に合わせて、校内でも硬筆展と書きぞめ展を開催している。競書会の日を設定し、作品を仕上げて掲示をして、保護者の方々にも見に来ていただいている。

そのため、金賞を取りたい、選手になりたいと意欲を高める児童も多くいる。



3 成果と課題

(1) 書写の時間がどのような時間かを考えたことのある児童は少なかった。オリエンテーションを行ったことで一年の見通しが立ち、書写で学習したことを他の教科や生活にも活かせるということを児童が知るよい機会となり、次年度以降も継続していきたいと考えている。

(2) どの教科においても学習環境を整えること、学習用具を揃えることは、学習効果を上げることにつながる。書写の時間は、道具の置く場所を明確にし、授業のはじめに必ず確認するようにした。また書く姿勢や筆の持ち方についても必ず確認の時間を取り、できていない児童には声をかけたり一緒に確認したりするようにした。

少しずつ自分でできる児童が増え、よい姿勢と落ち着いた態度で学習に取り組むことができた。高学年になるにつれ、筆の持ち方を直すことが難しく感じたが、継続して指導を行っていきたい。



(3) 本校がこのキャラクターを使い始めて2年目となる。筆遣いが難しい「曲がり」や「はらい」の書き方の説明も動画の基準を見せるだけでなく、キャラクターを使って図と言葉で穂先の位置を説明できるので指導に有効である。

(4) ICT機器の活用は、視覚的にとらえることができるので、言葉だけでは説明しきれない部分を理解させることに効果的だった。また個人のタブレットで自分が見直したいと思ったタイミングで筆遣いを確認させたことは、自分のペースで主体的に活動を進めることに有効であった。

(5) 校内硬筆展、校内書きぞめ展の実施は、児童の書写への意識を高めることに大きな影響を与えた。他の児童の作品を見てよいとこ

ろを見つけたり、保護者の方々に見ていただいて児童のよさを認めていただいたりすることができる良い機会となった。

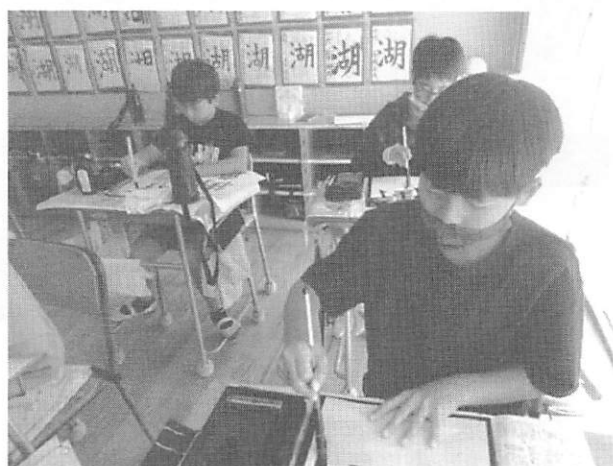
また、児童が自分の伸びを十分に感じさせられるような声掛けを心掛け、一人一人それぞれが一生懸命に書いた字を認めるようにした。

4 おわりに

タブレット端末が普及し、小学校の教育活動の中で、字を書く機会がタブレットに打ち込む機会に変わった場面も多くある。しかし、まだまだ生活のなかで字を書く機会が多い。

文字を書くことが苦手な児童の苦手意識を少しずつでもなくしていくことが大切であると考える。そのために授業内容を充実させることはもちろん、一人一人に寄り添った指導をしなければならないことを感じた。

児童一人一人が自信をもって自分の字を書いていけるようこれからも指導を続けていきたい。



主体的に取り組み、文字に対しての関心を深める書写指導を目指して

越谷市立栄進中学校 渥 美 めぐみ

1 はじめに

本校は、24学級（特別支援学級を含む）で構成された活気のある学校であり、学習意欲が高い生徒が多いことが特徴である。書写活動においても、短い練習期間の中で意欲的に取り組む生徒は多いが、なかなか字形やバランスなどが改善されないことが現状の課題である。

このような現状を踏まえて、本校では、「主体的に書写活動に取り組み、文字に対しての関心を深める」授業づくりを目指している。硬筆・書きぞめの特色に応じて、生徒が意欲的に自分の字と向き合い、成長を実感できるような指導を行っていく。

2 具体的な取り組み

【中学1年生 硬筆の取組】

（1）大型TVでペンの持ち方指導。

小学校と中学校の硬筆の決定的な違いは、文量とペンの使用である。鉛筆とペンでは力の入れ具合が異なるため、基準のような字を書くためにはどのような持ち方で、どのように力を加えれば良いかを指導する。加えて、書くときの姿勢などを書写の教科書を基に確認していく。

（2）自分の名前の基準をサイトで作成する。

生徒がタブレットで「習字のお手本変換ツール」というサイトを使って、自分の名前の基準を作成する。このサイトは、文字の大きさや楷書・行書の選択ができ、1年生から3年生まで使用可能である。自分の名前を入力するだけで基準が表示されるので、生徒がタブレットで作成し、保存して練習時に使用する。教員が全員分の名前基準を作成する手間も省くことができ、負担軽減にもつながる。

① お手本を見たい文字を入力

渥美 めぐみ

② お手本の文字

大きさ

書体

表示形式

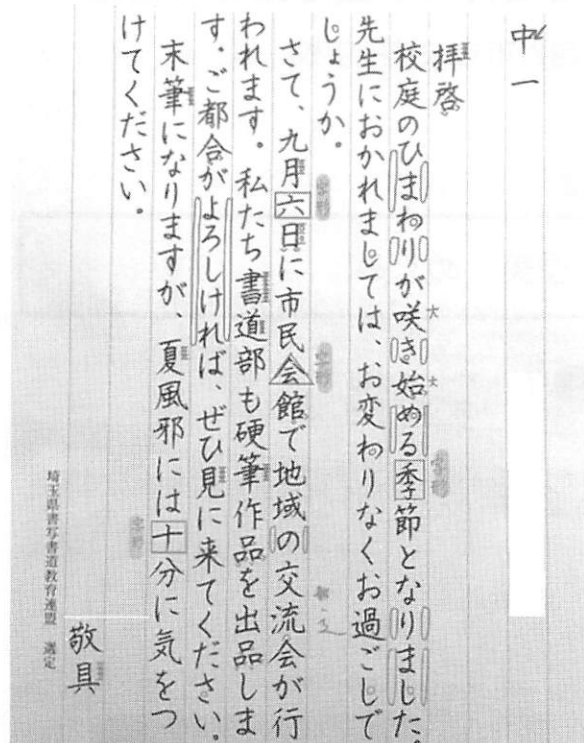
うまく変換されていない方はクリック

渥美
めぐみ

この文字の印刷データを作る

上の写真は、実際のサイトの画面である。手順がわかりやすく、生徒に指示しやすい。文字の大きさ、行書の種類、縦書き・横書きの指定もできるので、2年生の横書きや3年生の行書の硬筆にも活用できる。旧漢字にもほとんど対応しており、細かい箇所はタブレット上で拡大もできる。

- (3) 大型 TV で、書く際に意識すべき箇所を解説する。



教員がタブレットを使って基準に加筆し、字形・文字の大きさ・バランス等で意識すべきポイントを解説する。解説とともに、意識すべき箇所には共通点があることを確認し、文字に対する理解を深める。

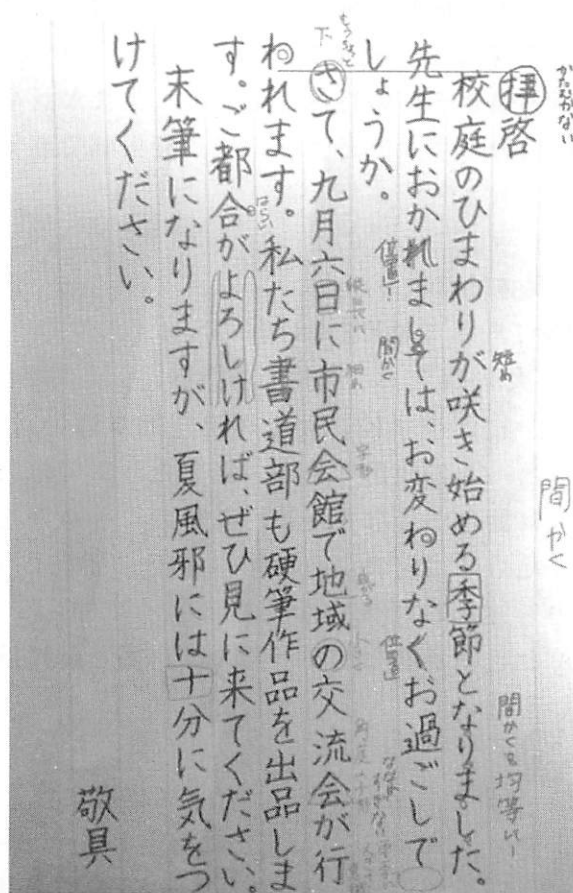
- (4) 自分の基準と加筆された基準を基に練習する。

(3) の加筆されている基準は、ロイロノートから閲覧できるようにして、自分の基準とともに確認しながら練習するように指導した。写真のような机上の配置で行うと、見比べやすくスムーズに練習ができた。



- (5) 自分の作品をタブレットで振り返る。

完成した作品をタブレットで写真を撮り、どこを改善すべきか考えさせる。加筆されている基準のような形で、字形・大きさ・中心線・バランスなどの観点から修正箇所を書き込ませていく。「先生になった気分で、どんどん修正していこう」と声をかけると、生徒たちは楽しみながら進んで自分の字と向き合い、改善点をすらすらと挙げる事ができた。すべて修正箇所を書き込んだ後、周りの席の生徒と共有させてお互いに改善点を見つけ合うように指示をした。自分では見つけられなかった改善点も共有でき、次の作品に向けての良い振り返りとなる。



- (6) 前時の作品修正を基に練習する。

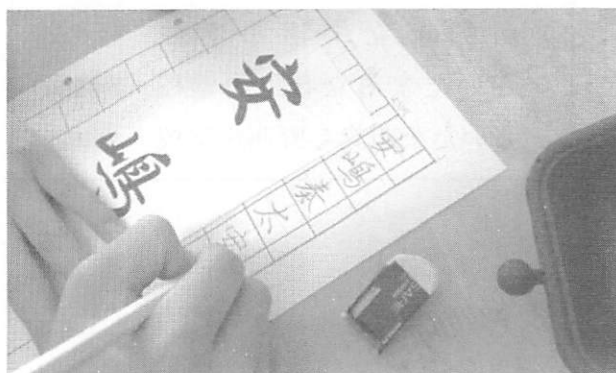
前時に修正した作品をタブレットで表示しながら練習していく。自分で見つけた改善点は意識しやすいようで、どの生徒も毎時間の成長が著しかった。毎回タブレットで作品を撮影することで改めて自分の字へ向き合う時間を作ることができ、一つ一つの字に対する意識が向上した。

【中学1年生 書きぞめの取組】

(1) 「行書」の特徴をおさえる。

行書に初めて触れる中学1年生に対して、書きぞめの授業に入る前に、プリントを活用して行書の特徴をおさえた。文字をいくつか提示し楷書と行書ではどのような違いがあるか考えさせ、他者と意見を共有しながら答えを見つけていく。

授業の後半では、「筆脈」「柔らかさ」などをふまえて、自分の名前を行書で書く練習を行い、行書に慣れさせる。練習の際は、芯の柔らかい鉛筆で書くことを指定し、筆圧の強弱や払いのなめらかさまで意識して練習するように指導する。昨年度の1年生は、行書で自分の名前を書くことに難しさを感じていた様子であったが、今年度の1年生はこの取組を行ったことで、書きぞめの活動でもスムーズに自分の名前を書くことができていた。



(2) 動画を見て行書の筆の運び方を確認する。

書きぞめの基準にあるQRコードから動画を読み込み、行書の筆運びを学ばせる。筆脈を意識した柔らかな運筆を、実際に筆を持ちながら基準をなぞっていくことで、文字に対してのイメージを膨らませる。何度かなぞったら、実際に画仙紙に練習し、改善点を自ら見つけるように指導する。

(3) 硬筆と同様の流れで、自分の字を振り返り、次の作品へ活かす。

硬筆で行ったタブレットでの振り返りを、書きぞめでも同様に行った。「写真に撮って確認することで、自分の作品を客観的に見ることができるので、書いているときには気づかなかったところに気づくことができた」と述べる生徒も複数いて、少ない授業時間の中でも自分の納得する作品を提出できる生徒が多かった。

3 おわりに

今年度からの新しい取組として、自分の作品をタブレットで振り返り、次回に活かすという授業を行った。その結果、昨年度よりも生徒の文字に対する意識が向上し、毎回の授業に成長が見られた。自ら改善点を見つけ、自ら直していくことで達成感が生まれ、より前向きに書写に向き合う生徒が増えた。この授業をきっかけに普段の生活での文字の意識も高め、正しく丁寧に整った字を書くことの意義を継続して伝えていきたい。

埼玉県書写教育研究会役員表

役 員	氏 名	勤 務 校 名
顧問	荻 田 哲 男	文 教 大 学
顧問	小 原 茂	入間市立野田中学校 (長)
会長	堀 越 敦	行田市立長野中学校 (長)
副会長	関 根 祐 介	杉戸町立杉戸中学校 (頭)
常任理事	伏 谷 洋 美	狭山市立広瀬小学校 (再)
〃	山 田 悦 子	ふじみ野市立駒西小学校 (諭)
〃	鈴 木 美 紀	加須市立不動岡小学校 (諭)
〃	中 島 和 子	桶川市立桶川東小学校 (再)
〃	秋 野 眞由美	さいたま市立城北小学校 (諭)
〃	尾 形 成 子	越谷市立蒲生南小学校 (諭)
〃	小 林 久美子	熊谷市立熊谷東小学校 (諭)
〃	鯨 井 佳 恵	熊谷市立新堀小学校 (諭)
〃	吉 村 真菜美	本庄市立中央小学校 (幹)
〃	松 井 直 美	坂戸市立坂戸小学校 (諭)
〃	松 永 秀 則	蓮田市立黒浜西中学校 (再)
〃	田 中 啓	さいたま市立桜山中学校 (幹)
〃	神 田 貴 裕	嵐山町立玉ノ岡中学校 (幹)
〃	大 林 千 恵	所沢市立南陵中学校 (諭)
〃	福 田 英 正	ときがわ町立玉川中学校 (諭)
〃	三 上 陽 照	所沢市立牛沼小学校 (頭)
〃	宮 崎 奈 々	さいたま市立春里中学校 (諭)
監 事	越 智 宏 明	さいたま市立与野西中学校 (長)

	番号	支 部 名	氏 名	勤 務 校 名
支 部 長	1	さいたま・浦和	川 相 尚 実	さいたま市立南浦和小学校 (論)
	2	さいたま・大宮	吉 田 和 典	さいたま市立芝川小学校 (論)
	3	さいたま・岩槻	秋 野 眞由美	さいたま市立城北小学校 (論)
	4	川 口	吉 見 範 子	川口市立芝富士小学校 (長)
	5	川 越	長 岡 真由美	川越市立古谷小学校 (論)
	6	熊 谷	田 口 応 子	熊谷市立石原小学校 (論)
	7	秩 父	船 崎 浩	秩父市立高篠小学校 (長)
	8	本 庄	佐 國 勝	神川町立丹荘小学校 (長)
	9	所 沢	鈴 木 良 治	所沢市立北中小学校 (論)
	10	行 田	金 子 亜 弥	行田市立忍小学校 (論)
	11	春 日 部	内 藤 磨梨奈	春日部市武里南小学校 (論)
	12	鴻 巣	児 玉 杏 奈	鴻巣市立鴻巣中学校 (論)
	13	狭 山	鈴 木 智 也	狭山市立入間野中学校 (論)
	14	飯 能	廣 原 美奈子	飯能市立加治東小学校 (論)
	15	越 谷	杉 井 みどり	越谷市立宮本小学校 (長)
	16	羽 生	橋 本 歩 未	羽生市立手小林小学校 (論)
	17	加 須	安 藤 美 幸	加須市立昭和中学校 (論)
	18	蕨	菅 原 義 裕	蕨市立東小学校 (長)
	19	入 間 市	内 田 小な美	入間市立新久小学校 (論)
	20	朝 霞	常 岡 圭 太	朝霞市立朝霞第五小学校 (論)
	21	坂 戸	嶋 田 幸 恵	毛呂山町立川角小学校 (論)
	22	比 企	柳 澤 京 子	川島町立伊草小学校 (論)
	23	久 喜・南 埼	松 本 千 恵	久喜市立久喜東小学校 (論)
	24	北 葛	風 間 昭 子	吉川市立関小学校 (論)
	25	寄 居	清 水 香 織	寄居町立鉢形小学校 (論)
	26	深 谷	高 野 訓 子	深谷市立岡部小学校 (論)
	27	上 尾	高 橋 聡	上尾市立大石北小学校 (論)
	28	草 加	草 場 翔 太	草加市立青柳中学校 (論)
	29	ふ じ み 野	齋 藤 奈保子	ふじみ野市立大井小学校 (論)
	30	東 松 山	能 見 泉	東松山市立野本小学校 (論)
	31	八 潮	須 郷 秀 教	八潮市立八條中学校 (論)
	32	三 郷	石 川 織 江	三郷市立高洲東小学校 (論)
	33	新 座	浜 田 祐 加	新座市立新座小学校 (長)
	34	幸 手	関 根 涉	幸手市立吉田小学校 (長)
	35	蓮 田	三 浦 恵 美	蓮田市立黒浜中学校 (論)
	36	富 士 見	相 原 正	三芳町立藤久保中学校 (論)
	37	日 高	田 中 力	日高市立高萩北中学校 (論)
	38	桶 川	梶 山 弘 子	桶川市立日出谷小学校 (論)
	39	北 本	郡 司 奈津美	北本市立中丸東小学校 (論)
	40	伊 奈	猪 原 弘 子	伊奈町立小針中学校 (論)
	41	和 光	渡 邊 肇	和光市立広沢小学校 (長)
	42	志 木	西 本 啓二郎	志木市立宗岡小学校 (論)

埼玉県書写教育研究会 研究集録

*発行者 会長 堀越 敦

*編集委員 松井 直美
吉村真菜美

*発行日 令和6年3月10日

*印刷所 ㈲三光堂印刷所